（別紙1）

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業　教育・研究活動事業実績報告書

教育･研究活動名	運動や遊びを通じて行う子どもの見守り･ささえあい活動			
申請大学･高校等名	大学及び高校等名	園田学園女子大学		
	活動グループ名	山崎ゼミ	参加学生等人数	９ 人
指導責任者名及び連絡先	学部･学科等名称	人間教育学部　児童教育学科		
	責任者氏名	山崎　雅史	連絡先電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団体及び代表者名	団体名	①社会福祉法人いきいきのびのび ②NPO 法人つなげる		
	代表者氏名	①橋本　貴美男 ②中原　美智子	連絡先電話番号	
	E-mail			
教育･研究活動目標	①立花地区の幼児や児童と同地区内に立地する本学の学生とが運動や遊びを通じて交流をすることで、子どもの居場所づくりを活性化させるとともに、子どもや子育てに関する課題解決に向けた取組を、社会福祉法人いきいきのびのびと協働しながら推進する。 ②多胎家庭が交流できる場「ふたごハウス」において、学生が子どもの遊び相手となり、見守り活動を行うなど、多胎支援に向けた取組を、NPO 法人つなげると協働しながら推進する。			
活動内容及び実績、評価	（活動内容及び実績） ①尼崎市立地域総合センター上ノ島（以下、「センター」とする）との連携 ･4/18 センターを訪問し、職員の方と学生との顔合わせや今後の活動等について、打ち合わせを行った。 ･7/29 に学生が企画･運営を行い、25 名程度の児童を対象に「こどもなつまつり」と題した運動遊びのイベントを実施した。小学校が夏休み期間中であったため、午前中に時間設定を行った。事前にイベントの実施についてチラシを作成し、センターを通じて子どもへの周知を図った。夏場であったため、水風船遊びの時間も設定した。お土産を用意した。 ･7/30 の夕方から、センターで実施された夏の子どもまつりに、ペットボトルボーリングとお菓子釣りの模擬店を出店した。本事業の予算から景品を購入することで、子どもの模擬店参加費が無料となり、多くの子どもが模擬店に参加してくれ、学生と子どもが関わる有意義な時間となった。 ･10/25,26,27 のセンターの文化祭において、これまでの活動の様子をまとめたポスターを掲示し、市民の方への活動報告を行った。 ･1/6 に「上ノ島冬まつり」と題したイベントをセンターで実施した。20 名程度の児童が参加した。あいにくの天候でグラウンドが使用できなかったため、屋内の会議室で若干ではあるが、体を動かした遊びを実施した。あらかじめ、センターと調整をし、12 月中にセンターが発行する「のびのび事業だより」に掲載していただき、周知を図った。また、年末には、学生がチラシを作成し、センターを通じて子どもへの再周知を図った。当日は、チラシを持って来館する児童の様子も見受けられた。活動内容については、雨天用のプログラムとして、船長さんの命令、反対信号、スプーンリレー、新聞紙じゃんけん、ジェスチャ			

ーゲームを実施した。最後にお土産をプレゼントした。
・2/3 に園田学園女子大学で開催された「尼崎でつながる地域の活動報告会」において、今年度の活動内容について報告を行った。
・2/4 から 2/14 にかけて、2/3 に使用したポスターをセンターに掲示してもらい、市民の方への活動報告を行った。

②ふたごハウスとの連携
・4/25 にふたごハウスを訪問し、事前研修として、活動方針や施設の使い方、子どもとの関わり方等について教わった。
・5,6,7,11 月は、月に 1,2 回、各回 2 名（のべ 18 名程度）がふたごハウスを訪問し、ふたごの子どもやその保護者と関わりながら、子どもと保護者の支援を行った。

（評価）
①学生等
・活動実施前に学生と、部落差別に関する学習を行った。学習前は、部落差別に関する知識をほとんど持ち合わせておらず、学習を通して、新たな知識を身に付けることができた。学習中は、知らないことを知ろうと意欲的に取り組み、疑問や課題を見出しながら、議論することで、見識を広げることができた。
・学生は何度もセンターへ足を運び、センターを利用している子どもの姿を見、そして子どもと関わることで、学校以外での子どもの居場所としてのセンターの必要性を感じている様子であった。しかし、子どもと関わるということに主眼が置かれていたこともあり、地域との繋がりという広い視点で本事業を捉えられていたかどうかは疑問が残る。
・多胎育児について、考える機会がなかった学生が、ふたごハウスを訪問し、スタッフの方や保護者から多胎育児の大変さについて様々な話を聞くことができ、保育者や教育者としての視野を広げることができたようである。
②市民活動団体の活動者
・上ノ島での活動では、イベント実施毎に、打ち合わせを行った。活動時間や活動内容について調整をし、実施することで、子どもが楽しく遊ぶ姿や満足している姿が見られた。
・普段子どもが行わない遊びを中心に学生が遊びの提供をしてくれたのが良かった。イベントの実施もそうであるが、日頃からセンターに顔を出して子どもと関わってもらえると尚良い。
・子どもは地域にある大学の学生と関われることをとても喜んでおり、楽しみにしていた。今年度は、地域のイベント（夏祭り）への参加も実行できた。学生がセンターで子どもと関わることで、子どもの姿が変わる。それをセンターの活動の活性化へと繋げたい。
・学生が多胎育児に触れる機会は重要である。子どもとの関わりだけではなく、保護者の方と間接的にも関わることで、学生は多くの学びを得るはずである。今年度の成果と課題を踏まえ、次年度も協働したい。
・学生が利用者と関わっていただけるのは大変ありがたい。より強く地域で協働するという視点を育んでいければ尚良い。
③指導教員
・申請時のスケジュールを目安に活動を実施した。年度当初の顔合わせや打ち合わせ、事前研修は予定通り実施でき、学生、センター、ふたごハウススタッフ、指導教員で活動についてのイメージを共有することができた。
・昨年度実施できなかった尼崎でつながる地域の活動報告会において、学生による口頭発表を行うことができた。活動を広く周知するには適した会であった。また、センターの文化祭でのポスター掲示、2 月上旬にも活動報告のポスター掲示をすることで、本事業の活動を広く発信することができた。また、3 月にセンターが発行する広報誌にも協働の様子を取り上げてくださり、発信することができた。
・次年度に向けて、連携している 2 団体と今年度の総括をしながら、次年度のよりよい活動へとつなげていく予定である。
・今年度は 9 名の学生が参加したが、次年度も同程度の学生が参加予定である。

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。